

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成30年11月19日

施設名	香北青少年の家	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	(株)香北ふるさとみらい	指定期間	平成27年4月1日～32年3月31日
施設所在地	香美市香北町吉野1300		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><平成29年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日帰りだよ！親子忍者大会体験 ・日帰りだよ！ちびっ子忍ジャー ・子どもフェスティバル忍者大会 ・プチ!!親子避難生活体験 ・日帰りだよ！集まれ!!未来の麵職人 子どもフェスティバル集まれ!!未来の麵職人 ・めざせ!!やなせたかし先生 など 		
施設内容	<p>青少年教育施設として、「自然とのふれあい体験、共同生活体験及び体験的な学習活動などを通じて心身ともに健全な青少年の育成を図る」という設置目的に基づき運営している。</p> <p>構造:本館 鉄筋コンクリート2階 延べ1,002.65㎡ 別館 鉄筋コンクリート平屋 延べ295㎡ 研修棟 鉄筋平屋 延べ300.16㎡</p> <p>施設概要: 研修室 3室(定員20名,80名,120名) 宿泊室 定員127名 浴室3室 野外炊飯場 3箇所 定員300名 ランニングコース 1コース 1.7km オリエンテーリングコース 1コース 10km ウォークラリーコース 2コース 5km</p>		
職員体制	職員:所長1名 マーケティング部シニアマネージャー1名 会計総務部長1名 会計総務1名 指導主任1名 指導員2名 調理主任1名 調理員3名 警備宿直3名 合計:14名		

2 収支の状況

(単位:円)

		H28年度(決算)	H29年度(決算)	H30年度(予算)
収入	県支出金	38,747,000	39,120,000	39,164,000
	事業費収入	771,424	743,367	832,000
	収入計	39,518,424	39,863,367	39,996,000
支出	事業費	1,418,436	1,145,752	1,474,000
	管理運営費	9,307,480	13,022,553	10,260,000
	人件費	25,865,239	22,742,232	25,300,000
	消費税	2,927,269	2,952,830	2,962,000
	支出計	39,518,424	39,863,367	39,996,000
使用料収入	2,374,910	2,087,050	2,206,000	

3 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
宿泊者数	6,869	6,736	6,672	7,481	6,589	6,869

(2) 利用団体数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
団体数	160	166	165	175	162	166

(3) 利用者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平均
人数	15,027	14,627	14,931	16,469	15,129	15,237

4 業務の評価

項目	施設からの状況説明に対する評価・意見
①利用拡大のための取り組み	<p>①各施設の特徴を生かしたプログラムの充実 ●親子参加型「日帰りだよ！親子忍者大会体験」・・・「忍者大会」は長い年月にわたって子どもたちに大人気のイベントである。また、「親子忍者大会体験」も日常生活で発見できなかったことを新たに発見し、親子で過ごす貴重な楽しい行事となっている。 ただ、親子のコミュニケーションで絆を深める事業のねらいはよいが、参加者がどう変わったかが見えない部分がある。</p> <p>●新規事業「集まれ！ちびっこ忍ジャー」・・・自然豊かな環境の中で、運動に親しむきっかけづくりとなり、新たな看板事業となったことは喜ばしい。親子一緒に活動することは幼児期において大変重要であると考える。</p> <p>●「プチ！親子避難生活体験」・・・防災を親子で考える体験は、すばらしい。</p> <p>●「めざせ！やなせたかし先生」・・・子どもたちの表現力、発想力で感動や活力を喚起させることは大切。地元ならではの企画なので今後期待したい。</p> <p>②効果的PR活動・・・ホームページのリニューアルや、新しいパンフレットを作成配布し(小学校70校持参・126校郵送)、また、主催事業のチラシを学校に配布依頼したり、南国・香南・香美地域密着生活情報誌「月刊こじゃんと」に『集まれ！忍ジャー』『めざせ!!やなせたかし先生』を掲載する等、積極的なPR活動ができています。</p> <p>③フォローアップ・・・主催事業申込者全員(643名)に御礼の手紙と共に平成30年度主催事業案内等を送付しており、参加者に次回も利用したいと思っていただくための細やかな目配り・気配り・手配りができている。</p> <p>④学校との連携・・・学校・地域社会との連携、ボランティアスタッフ、地域の団体との連携ができています。</p>
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>①利用者ニーズの把握・・・小学5年生宿泊学習においては、事前に先生方と細かく(約2時間)打ち合わせを行い、より良い宿泊学習ができるよう努力している。</p> <p>②利用者サービスの向上・・・利用者が気持ちよく利用できるよう、色褪せていた別館とはなれのカーテンを取替え、利用者アンケートで指摘のあった食堂の古い椅子36脚の取替えを行っている。 提供する食材を地元産にこだわり利用者に安心を提供している。</p> <p>③職員の資質・指導力の向上・・・アンガーマネジメント研修など時代の要請に応えた取り組みは非常に評価できる。今後は、職員研修の記録をとり、さらなる資質向上のための目標や計画の策定を望む。</p> <p>④障害者や高齢者への配慮・・・気がかりな行動がある子どもや特性があるように感じられる子どもへの支援の仕方を学び、適切な対応を心がけているほか、高齢者雇用(短時間パート5名)にも取り組んでいる。</p> <p>⑤緊急事態時の連絡体制の整備・・・細やかな配慮がいきわたっている。</p>
③施設の運営について	<p>①職場環境について・・・指導員間のミーティングを定期的に行い、コミュニケーション不足を解消し、スムーズに連携をとり効率よく業務を進める職場環境づくりに取り組んでいる。一方で、目的を共有化したとあるが、具体的な行動がわからない部分がある。</p> <p>②施設面について・・・野外炊爨場のテーブルを補修、通路舗装修繕、野外トイレ前の側溝破損を修繕し、グレーティングを追加して安全面を強化している。障害者や高齢者が宿泊する際には、バリアフリーとなっている別館を貸切で利用できるよう配慮されている。</p> <p>③業務運営改善の取り組み・・・アレルギー事故防止のため、利用団体に必ずアレルギー確認表を提出してもらい、アレルギーのある利用者には事前に成分表を基にメニュー変更等の打ち合わせを行ったうえで提供メニューを送付、了承確認のうえで提供することを徹底できている。</p> <p>④施設運営へのボランティアの活用・・・学生ボランティアを「青年リーダー研修」で育成し、主催事業に積極的に活用している。一方で、学生だけでなく、他の体験活動団体とのパートナーシップでファンを募るのも大切と考える。</p> <p>⑤指定管理者の管理運営状況・・・受入行事や自主事業の運営状況はどうだったのか整理が必要。主催事業アンケートで、定量的に分析できる様改善したとあるが、参加者のねらいに合った“変化”があったのかどうか、大切。それが見えるものであれば、よいと思う。</p>

④利用実績	<p>(1) 少子化による県全体の人口減があるにも関わらず、利用者数が10年間変化が少ないのは、職員の努力の賜物である。 一方、危惧することは、以下の点があげられるので、引き続き検討を深めてほしい。 ●「宿泊稼働率、利用団体稼働率等が定常的に低い」点について、分析をし、対策をたてているか ●代替策があるか ●宿泊者が少なくなったが、その分析と対策は。</p> <p>(2) 平成28年度と比較して、利用者数は1,340名減少、宿泊者数は892名減少している。減少の要因は、台風接近のため主催事業が2回中止になったことと、インフルエンザ警報のため、宿泊事業が日帰りに変更になったことがあげられる。利用者アンケートの評価は4.7と高く、大いに評価できる。</p>
⑤収支の状況	<p>平成28年度と比較して、使用料収入は287,860円減少した。事業費は272,684円減少、管理運営費は3,715,073円増加、人件費は3,123,007円の減少となっている。 経費間の流用はあるが、全体としては年間の運営は年度協定に定める収支予算の金額以内で執行できている。</p>
総合評価	<p>目玉である「忍者大会」は、すでに高知県の野外体験型事業の代表的な事業になっている。そこで、今後はこの事業の精度を上げることと同時に対象者の枠組を拡大するという展開に尽力して頂きたい。そのためには現在実施している職員の資質・指導力を向上させる取り組みも継続して頂きたい。本施設が実施している姿勢は、本県の青少年教育施設のモデルになろう。</p> <p>一方で、この事業に頼り過ぎ、基本理念の安全第一、自然とのふれあい体験、共同生活体験のうち、自然とのふれあい体験が疎かになっている部分があるのではないかと懸念している。事業は、基本理念があつてこそ成り立つものであることが、肝要である。</p> <p>A また、以前から継続課題であった地域との連携や特性を活かした教育プログラムの構築に対して、職員全員が一丸となって取り組み自治体や地元中学校とコラボ企画を実現できたのは評価が高いところである。他施設と比較して職員の意識レベルが高く、施設の運営・管理ではなく、教育(共育)の観点で子ども達の健全な心身の発達に寄与し、学校教員や保護者にも寄り添い共に問題解決を図ろうとする姿勢は模範的なものである。</p> <p>ただ、施設の老朽化や収容人数の少なさがチャンスロスとなる場合も散見されるので、近隣の青少年施設(青少年センター)と互いの強みを活かした連携を期待する。例えば、日中の教育プログラムは香北青少年の家で実施し、食事および宿泊は青少年センターに移動して施設を利用するなどが可能になることによって、多様な学校現場からのニーズに応えることができるだけでなく、双方の施設の負担軽減に繋がるのではないだろうか。</p>

評価の目安

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

※「施設からの状況説明に対する評価・意見」欄には、各施設の品質向上及び利用者拡大に向けて、①から⑤までの項目に沿って、努力成果が見える点や改善が必要だと感じる点、その他特記事項をご記入ください。

また、他の参考になるような業務改善の取組については、総合評価欄にご記入ください。